

しゃけうじやま (えびなしNo.76) いせき	
<b>社家宇治山</b> <b>(海老名市No.76)</b> <b>遺跡</b>	
所在地	海老名市 社家
時代	弥生時代 ～ 中・近世



調査は、さがみ縦貫道路海老名北ジャンクション建設にともない日本道路公団より委託を受けて、平成 15 年 3 月より行われています。

遺跡は海老名市の南西部、JR相模線社家駅の北西約 0.3 km に位置し、相模川中流の左岸に形成された自然堤防上に立地しています。遺跡の東側には後背湿地である沖積低地が広がっています。

現在までに発見された遺構・遺物は

**【弥生時代後期～古墳時代前期】**

方形周溝墓 (ほうけいしゅうこうぼ) 8 基、古墳 (こふん) 4 基、竪穴住居址 (たてあなじゅうきょし) 33 軒、玉作り工房 3



▲ Cランプ 古墳時代全景



▲ 玉作り工房 (古墳時代)

軒が発見されました。工房の中からは、管玉（くだたま）の未製品や製作過程で廃棄された玉の破片が多数出土しました。玉作り工房の発見された遺跡は県内で数例しか報告されておらず、貴重な成果といえます。その他に、壺形土器（つぼがたどき）や高坏（たかつき）などの遺物が出土しています。



▲ 掘立柱建物址（中世）

### 【古代（奈良・平安時代）】

8世紀から9世紀頃と考えられる竪穴住居址、はたけ、溝が発見されました。土師器の坏（つき）や甕（かめ）、須恵器（すえき）の甕や瓶（へい）などが出土しています。

### 【中・近世】

戦国時代から江戸時代の堀に囲まれた屋敷地（やしきち）が発見されました。屋敷内からは、掘立柱建物址（ほったてばしらたてものし）のほか、溝や井戸などの付属施設が発見されています。また、これらの遺構内からは、中国産の染付磁器（そめつけじき）や青磁碗（せいじわん）、瀬戸（せと）や肥前（びぜん）で焼かれた陶磁器、漆器椀（しっきわん）、下駄など生活に密着した遺物が多数出土しています。